

「琴奨菊」を賜杯へ導いた巨つのL

# サンデー毎日

元正11年05月10日発行 発行所：読者サービス部  
2019年05月10日発行 第1400号 定価380円  
毎週土曜日発行(2日23日発行)

2.14号

定価 380円

半藤一利×保阪正康×青木理

「安保法制後の  
ニッポン」

熱闘  
座談会

甘利辞任の「次」

激白 小林節

「憲法破壊」政権へ挑戦状!

大反響 昭和のテレビ

「柔道一直線」

「サインはV」

タイプ別治療法

「放っておいて  
いい腰痛」

「危険な腰痛」

田中角栄ブームは「政治劣化」への警鐘だ!

今こそ「角サン」がいたら...

二階俊博

独占インタビュー  
自民党総務会長

高橋 ひかる

160年の歴史を持つ和傘の老舗日吉屋の西堀耕太郎氏。廃業寸前だった妻の実家である日吉屋を再建し、今や海外販売を展開

世界とコラボレーションする

## 京都・伝統工芸 の美しさ。

千年の都、京都。天皇や貴族のお誂え用として発達した西陣織など、その歴史をまどってきた伝統工芸に、今世界の熱い注目が集まっている。

欧米の一流ブランド、ホテル、インテリア、ファッションなどさまざまなジャンルのクリエイターたちがその美しさを高く評価。

長年にわたり培われたデザインやオリジナリティー、技術力や文化を守る後継者たちが世界中に向けて発信しています。

写真・文 片野田 斉



糸を交互に交差させて組み織りながらひもに仕上げていく。千年前に生まれた京くみひもの技術が三軸に生かされている



## 京和傘

小嶋商店は、家内分業で竹割りから給付けまでを手仕上げする数少ない京・地張り提灯専門の老舗である



## 京提灯



竹の骨の状態を気づかいながら糸を通していく



受け継いできた伝統美を活かしたシンプルで新しい照明を制作し、海外に販路を広げた

### ◆ 日吉屋

【住】京都市上京区寺之内通堀川東入ル百々町546

【☎】075-441-6844

【営】10:00~17:00

【休】土・日・祝（事前に連絡をいただければ土曜日は営業）

<http://www.wagasa.com>



左／祇園祭の山鉾でつかう傘は江戸時代中期のものもある。全国のお祭りを使う古い和傘の修理修復もおこなう

下／糸を通す順番や、色を確認しながら根気よく修復する



## 「伝」統は革新の連続。今の時代に使えるものを作っていくかなければ、伝統工芸は絶滅する。デザイン的に優れ自分

が欲しいと思うものを作っています」（「日吉屋」西堀氏）。今後は、アジアのデザインに興味があるという中東諸国に展開していくと話す。

和装製品を取り扱う「近江屋」は京くみひもの技術を応用した「三軸組織」という特殊なシルクの布地を「SANJIKU」とブランド化した。職人たちの目と勘により織り上げられた独特の風合いは、ヨーロッパを中心に日カ国に輸出実績がある。

江戸寛政年間創業の「小嶋商店」は、京・地張り提灯専門の老舗。京都南座の大提灯をはじめ、主に全国への献灯や看板提灯を手がけている。

いずれの老舗も伝統ある技術やオリジナリティーを革新し、現代に引き継いだ。これぞ真のクールジャパンである。